

abraço

ブラジルでは挨拶でアブロッソ（ハグ）をします
言葉を超えて想いが伝わるアブロッソは素敵な文化
※アミーゴ同士は握手をして肩をたたき合う



JICA横浜2021国内研修を経て、2024教師海外研修参加へ



「多文化共生・移民」について児童・生徒に伝えるべきことは何か？広げていくためにはどうしたらよいか？コロナ禍で海外プログラムが実施されなかった2021年度国内実施のこの学びに参加しました。今回ブラジルでの研修と比較できることで新たな気づきも絶対あると思い応募しました。神奈川県と山梨県の教員が応募し、選考を通過した11人で研修を受けています。

8月3日～17日、多文化共生社会が体現されているブラジル連邦共和国に行ってきました。日本からブラジルに渡った移民の歴史と現在。学校や公共施設における多文化共生の実態と課題。「百聞は一見にしかず」自身の目で見て、耳で聞いて、手で触れて、体験して、実感したことがたくさんありました。

自身が学んだこと、考えたこと、そしてみなさんに伝えたいことを記していきます。

Brazil is here!

Brazil ってどんな国？

日本の反対側に位置するブラジル🇧🇷（首都:ブラジリア）基礎知識

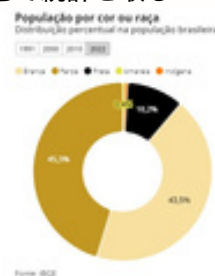


Nationality

人種のサラダボール

2022-2023の国勢調査の結果によれば、白人約43.5%、黒人約10.2%、先住民約0.8%、黄色人種約0.4%。この回初めてパルト(褐色)が45.3(約9210万人)となり、白人を上回った。

※肌の色で統計を取る



Language

中南米唯一葡萄牙

トルデシリャス条約の際にひかれた「教皇子午線」により、東側に位置していたブラジルはポルトガル領となった。1822年9月7日に独立。公用語はブラジルポルトガル語。英語教育は公立の学校でも実施と言われているが、実際は私立の学校の選択授業等で行われている。よってポルトガル語しか使用できない人がとても多い。

Program schedule

わたしたちがすべきこと・できること

研修	プログラム内容	実施日	実施場所
	多文化共生について実践授業	2024/9-12	各所属校
	開発教育セミナー（応用編）	2025/1/11-12	JICA横浜
	最終報告会	2025/2-3	JICA横浜・JICA山梨

check

10月5日(土)「ポンデケージョ」プログラム実施
10月10日(木)「多文化共生」特別授業実践
※今後ブラジルでの活動、学園での上記活動について発表の機会を設ける予定

ブラジルポルトガル語

ブラジル国内において「英語」は第2外国語であり、学習者は限られています。その為、お店やレストランでは英語が通じず、表記もポルトガル語だけ、ということがよくあります。

ただし、ポルトガル語とスペイン語は文法や発音において似通っているため、言語が違えど互いに理解することができるそうです。また、イタリア語もラテン語を祖先に持つロマンス語群にあること、またイタリアからの移民の存在もあり意思疎通においては問題ないそうです。

英語学習をすれど、なかなか定着しない状況は日本と同じようです。



食文化



ブラジルの穀物自給率は122%。2024年5月には日本の農林水産省がブラジル政府との間で不測の事態に備えた食料安全保障に向けた取り組みに合意しました。

多国籍、多文化が融合した社会は例えば食事の際の一皿にも体现されています。ブラジルでよく見かけるのが「量り売りレストラン」です。ビュッフェスタイルから各々好きな料理を好きな分だけプレートに盛り、重さに応じた料金を払います。それぞれの味が混ざり合うところも「ブラジルらしい」と感じました。

フェイジョアードは伝統料理。豆と肉とソーセージの煮込みです。ブラジル建国の歴史が詰まった一品です。

経済格差

ブラジルは世界でも特に経済格差が大きい国の一つと言われています。シンクタンクFGVによれば、1人当たりの月額収入が210レアル約6000円未満の世帯の比率は10%以上に達したということです。

経済格差は教育格差、社会格差にもつながり、それは10分間に1人が殺されていると言われる高い犯罪率の一つの要因でもあります。

おなじ ちがい

特 集



日系移民

アマゾン川流域ペレ州トメアスーは日系移民開拓の地です。現在も多くの日系1世、2世、3世の人々が暮らしています。JICAが出資した機械を使用するジュース工場もあります。資料にある胡椒御殿にホームステイをしました。日本から2万キロ離れた地で手作りのこんにやくを頂きました。



胡椒御殿に
宿泊しました



多様性

研修で訪れた先で感じたことは、多文化共生社会が、単に国籍や文化が多様であるということではなく、性別や年齢や身体的・精神的困難の有無等においても共生しているということでした。

「異質の他者を認める」「自身も相手にとっては異質である」公文国際学園が大切にしている心を感じました。

あとがき

今回は、これから深掘りしたいトピックをダイジェスト版で記事にしました。今後不定期にて「多様性」をテーマに発行していく予定です。

日本の反対側に位置し、1日以上かかるブラジルに行くことはなかなか難しいでしょう。だからこそ、自分が感じたことを少しでも多くの人に伝えたい、伝えなければいけないと思っています。

質問や感想などありましたら、ぜひ聞かせてください。最後までお付き合いいただきObrigada! (ポストガル語で「ありがとう」) ※男性はObrigado

幸せの定義

ブラジルでは形に残るもの（例えば家や車、ブランド品）ではなく、食べ物や旅行（家族や友達と共に過ごす時間をゆたかにするもの・こと）にお金を費やすそうです。

またお祝いごとの際には家族だけではなく、親せきや近所の人でも大集合して大音響で音楽を流し、深夜12時近くまで楽しめます。



written by 菊池 史織

公文国際学園中等部・高等部
英語科 進路部

所在地 :244-0004

横浜市戸塚区小雀町777番地

URL :<https://www.kumon.ac.jp>

MAIL :kshiori@kumon.ac.jp

